

== 第25号 ==



PV-NetNews

PV-Net News第25号 2012年11月20日発行 ■発行人:藤井石根 ■編集人:都筑建 ■発行所:特定非営利活動法人 太陽光発電所ネットワーク
〒113-0034 東京都文京区湯島1-9-10湯島ビル602 TEL03-5805-3577 FAX03-5805-3588 ※記事および写真等の無断転載はお断りいたします。
■記事・広告等のお問い合わせ E-MAIL info@greenenergy.jp TEL 03-5805-3577 www.greenenergy.jp

太陽光発電のことを英語でPhotovoltaic power generationといい、略して「PV」と呼ばれています。
太陽光発電所ネットワークの英文名称PV Owner Network Japanを省略して、この会の名称を「PV-Net」としています。

CONTENTSもくじ

1 もくじ

7月総会報告と

12月RE2012参加お知らせ

2-5 都筑建

□固定買取制度の

特集 動向について

□市民共同発電所

サポートセンター

6-7 定例総会報告

【第一部】1号～5号議案

【第二部】菅原省司・佐々木明宏

(被災地報告 / 震災復興へ)

8-9 省エネでも豊かな生活

【会員の広場】西田三千男

林彰一・鷲尾功治・

中川善樹・佐藤史子

10-11 自然エネルギー学校

in 小諸エコビレッジ 秋祭

12-13 各地の発電量データと

太陽光発電所マップ

14-15 発電所長のつぶやき・川柳

コラム【G 電力証書】【映画上映会】

16-22 地域の動き / 活動報告

山口・関西・兵庫・静岡・

山梨・東京・千葉・埼玉・

茨城・京都・神奈川・中部

23 10月理事会報告

24 事務局からのお知らせ

大集合イベントは
2月16日に決定。

今年も RE2012 に参加します

第7回 再生可能エネルギー世界展示会に今年も出展します。

PV-Net は「みんなの力で私達の“ソーラーライフ”をさらに充実させよう!!」を掲げ、会の活動紹介、PV相談室、市民共同発電所サポート、自然エネ学校、グリーン電力証書紹介、本販売等で今年も参加します。【ブース位置 R-11-401】昨年同様、開催期間中のお手伝い、ボランティアスタッフも募集いたします。

2012年12月5日(水)～7日(金) (各日10:00～17:00)

会場：幕張メッセ

入場無料

7.28 定例総会報告

2003年創立総会から10年目となる今年の総会は7月28日(土)に御茶ノ水の明治大学で行われました。■第1部は議案書に合わせ代表あいさつ、理事紹介、議長選出、定足数報告、1号議案/2011年度活動報告、2号議案/2011年度決算報告、3号議案/2012年度活動方針、4号議案/2012年度予算、5号議案/評議員選任 ■第2部は被災地支援要素も含む市「市民共同発電所サポートセンター」計画提案、宮古から被災地報告として菅原省司様からお話、さらに岩手のPV普及企画で岩手県温暖化防止センター佐々木明宏様にお話をいただきました。すでに動き出している静岡市民共同発電所や小諸エコビレッジの進捗報告もありました。その後の集合写真の撮影後、場所を移動し“第3部＝懇親会”も55名参加で大変盛り上がりしました。(6p～7pにて紹介します。)

クリスマス・イルミネーション、全国各地
PV-Green グリーン電力証書で点灯開始!!

(14p コラム参照 / 写真提供：日比谷花壇)



第 1 部 本年度の固定買い取り価格はどうか？

都筑建

1. 想定外に多い小規模太陽光発電の申請数

PV-Net では住宅用太陽光発電は余剰買取の利点を生かすべきだと主張しました。さらには、余剰の買取価格は予算が同じならば全量買取価格の 1.7 倍程度高いものにすべきとも加えました。それは余剰分に注目が集まることから省エネが進むという現代社会では、最優先の課題解決を強く促すと考え、さらに固定買取制度（以下 FIT）によって過度の投資、つまり投機の世界が蔓延し社会的モラルを破壊して混乱を起こす可能性があるため、「節度のある価格や期間」であるべきと主張していたのです。

さて、今年の 7 月からその FIT が施行されました。住宅用は余剰方式となりましたが、買取価格は全量と同じ消費税込で 42 円の価格となり、より幅広い普及の機会を狭めるものとなっています。

10kW 以上の太陽光発電（以下 PV）は全量買取となり、全国で堰を切ったように大量の建設申込みが各地方経産局に殺到しています。これまでは電力会社の自主的買取でしたので、建設プランを立てたらまず住宅用を含めて各管轄電力会社へ連系申請を

し、協議が成立したら内々に電力会社が国に認証手続きを行っていました。住宅用も実際は国の認証番号がついているのです。

今回は国の法律（再生可能エネルギー特措法、以下 FIT）として電力会社は買取が義務となったことで、まず建設プランを各地方経産局へ提出し、システムの認証番号 ID を習得する必要があり、その ID を持って電力会社との連系協議を行うという手順となっています。

「本制度(FIT)で売電するためには、事前に設備の認定を必ず受ける必要があります。設備認定とは、法令で定める要件に適合しているか国において確認するものです」と、経産省資源エネルギー庁のホームページ「なっとく！再生可能エネルギー (http://www.enecho.meti.go.jp/saiene/kaitori/nintei_setsubi.htm)」では、認定手続きや認定要件が記載されており、一読をお薦めします。

その認証申し込みですが、7 月の FIT 施行開始から 3 ヶ月で予定の半分を超えているといいます。その申請数の中身は、メガソーラーが大半かと思いきや 100kW 前後のシステムが「想定外」に多いそうなのです。

来年 3 月までに着工する大小の PV は大きな数字になると予想されています。

2. 来期の買取価格の行方は？

FIT では法の施行後 3 年間は、集中的な再生可能エネルギーの利用の拡大を図るために、再生可能エネルギーの供給者の利潤に特に配慮することとなっており、原則として毎年度見直すことになっている買取価格等は据え置かれるのではないかと思います。しかし上記の申請状況と、それに伴う国民「負担」の増大とから、価格はシステム価格の減少分だけ下げられるという圧力が強くなっており、政権交代も予測されることも絡み、買取価格の値下がりには既定路線になっている感があります。

建設価格の大半を占める PV パネルの値段が中国・台湾メーカの攻勢に完全に巻き込まれ、200 円/W 近くしていた価格が 150 円/W に下がり、なかには海外製の卸価格で 100 円/W を切ることもささやかれています。これは欧州市場の低迷などで大量生産した中国メーカの在庫がだぶつき、中国企業はほとんどが経営赤字となっているためと言われます。

2012年度における再生可能エネルギーの導入状況(10月末時点)			
	2011年度時点における導入量	2012年4月～10月末までに運転開始した設備容量	2012年度までの導入予測
太陽光(住宅)	約 400万kW	88.6万kW (4～6月 30.6万kW)	約150万kW
太陽光(非住宅)	約 80万kW	24.0万kW (4～6月 0.2万kW)	約50万kW

スペインで起きた FIT による暴落は制度運用のミスによると言われていますが、スタートしたばかりの日本の FIT もよほど運用をしっかりとしないと PV 産業そのものをダメにしてしまうでしょう。同時に原発推進側からの締め付けも続いています。

3. 市民共同発電所建設によって今の FIT は？

FIT 以前のこれまでの PV 市民共同発電所は、5～10kW 程度の小規模のものでした。採算が取れないこと、継続性に難があったことが相まって、資金調達を寄付型にせざるを得ず、必然的に小規模となり地域への影響はシンボリックな範疇に甘んじていたのが実情です。FIT 施行後は各地の市民団体による 50～100kW の小・中型のものが企画され、地域（コミュニティ）社会への影響力は、得られる電力によってさまざまな運用の可能性が語られるようになっていきます。しかし、実際に実行計画と資金運用を検討してみると、FIT だけでは成り立たないことがわかってきました。これは資金調達に必要な金融取引資格取得者や金融関係に強い弁護士や会計士の確保、高圧接続の電力会社との連系費用など、小規模になればなるほど負担が大きくなるためです。このような負担部分を共有することを目的として、太陽光発電所ネットワークでは「市民ファンドサポートセンター（<http://citizenfund.jimdo.com/>）」を立ち上げました。今多くの相談と復興支援と連携した企画等が実行されています。

さらに見えてくるのは、今の FIT は 500kW 以上のメガソーラーでない事業が成立しない仕組みであるこ

とです。いわゆるソフトバンクの孫社長たちの主張に合わせた制度設計なのです。

■再生エネルギー認定状況(H24.10.31)

認定件数(単位:件)	太陽光(10kW未満)		太陽光(10kW以上)	
	うち自家発電設備		うちメガソーラー(1000kW以上)	
北海道	2,218	16	311	74
青森県	710	13	16	1
岩手県	1,534	23	41	5
宮城県	3,429	84	105	3
秋田県	563	20	11	0
山形県	792	12	18	0
福島県	3,352	121	126	1
茨城県	4,567	222	324	7
栃木県	3,830	217	310	16
群馬県	3,444	89	257	6
埼玉県	7,432	369	287	11
千葉県	5,676	262	359	12
東京都	6,592	593	180	5
神奈川県	6,245	444	179	0
新潟県	931	53	38	3
富山県	778	18	73	1
石川県	707	3	72	1
山梨県	604	15	81	0
長野県	1,707	54	159	5
岐阜県	4,066	39	364	2
岐阜県	2,840	164	369	2
静岡県	5,550	179	583	4
愛知県	8,667	562	702	4
三重県	2,467	86	244	6
滋賀県	2,318	261	284	2
京都府	2,323	326	219	3
大阪府	6,226	1,262	587	14
兵庫県	5,594	801	741	17
奈良県	1,970	257	211	4
和歌山県	1,447	104	221	4
鳥取県	773	10	80	6
島根県	891	6	112	2
岡山県	3,338	98	406	14
広島県	3,597	91	490	12
山口県	2,065	117	202	12
徳島県	799	35	249	8
香川県	1,524	45	276	9
愛媛県	2,098	70	331	7
高知県	884	13	102	3
福岡県	5,522	220	741	22
佐賀県	1,526	11	256	0
長崎県	1,795	62	308	6
熊本県	2,602	35	493	9
大分県	1,776	24	713	9
宮崎県	2,045	10	394	8
鹿児島県	2,459	15	340	15
沖縄県	1,224	1	348	2
合計	133,554	7,552	13,304	340

＜資源エネルギー庁

[News Release11月]より＞

4. 市民にとっての FIT を！

注意しなければならないのは電力会社との契約です。電力各社のホームページ等で掲載されている FIT による事業者との契約条項には、思わぬ絶句するようなものがあります。

FIT は 20 年間固定価格で買取ることとは不変と思うのが常識ですが、よく読むと電力会社の判断で買取をやめることができると解釈できるような記述となっているのです。これにはあわせて経産省から、系統接続の契約の「ひな形」が作られました。この「ひな形」とて、500kW 以上を前提として作られています。市民共同発電所は圧倒的に 500kW 以下なのです。

来季の価格の抑制が語られるなかで言いたいのが、10kW 未満、500kW

未満、500kW 以上を 3 区分として場合の 500kW 以下は据え置き、または増額の価格設定の要求です。

本当に地域コミュニティを活性化していく市民が主導する協同による創エネルギーの実現が求められているのです。

「太陽電池モジュールの廃棄方法」

大量普及、特に何枚枚とモジュールを使うメガソーラーでは PV モジュールの廃棄は無視できません。ソーラフロンティア社（以下 S F 社）から以下の報告がされました。

1. 現時点におけるモジュールの標準的な廃棄方法について S F 社の PV モジュールは、一般産業廃棄物として処理が可能。アルミフレームは、解体の上、金属としてのリサイクルを推奨しており、端子箱およびケーブルも、解体により金属部のリサイクルが可能。パネル本体はガラス層として溶融処理し、処理後のスラグを再利用することが可能だが、粉砕埋立てによる処分も可能。（溶融処理は標準的なガラス層の処理方法の一つ）

2. 廃棄におけるセレンの扱いについて S F 社のモジュールはシリコンではなく C I S の化合物です。太陽電池モジュールはセルの成分としてセレンを含有しているが、ガラスの厚みが約 2cm+約 3cm あるのに対し、CIS 太陽電池素子部の厚さは 2～3μm で、製品のセレン含有率は極めて微量であり、第 2 種特定有害物質に指定されていますが、特別管理産業廃棄物に該当するか否かは溶出基準により定められており、製品や、ガラスと共にスラグ化した状態では、この基準を超えることはない判断。仮にメガワット規模のモジュールを一斉に廃棄する場合でも、現行の規制で特別な管理対象でないとのこと。

第2部 PV-Net 市民ファンドサポートセンターの取組

都筑建

昨年度末よりF I Tの7月からの施工予定をにらみながら PV-Net として市民ファンドサポートセンターの設立を準備してきました。

そもそも市民ファンドとは何か？

朝日新聞によれば

・・・・・・・・・・・・・・・・

市民からの寄付を中心に、市民の活動に助成をする、市民が運営する基金で、様々な形があります。

(1) 寄付受け入れの多様性

(2) 助成先の透明性

(3) 運営主体の市民性

・・・が要件とされる。行政よりも助成や融資の柔軟性が高い上、市民からの政策提言や政策推進の機能も合わせもつものです。

更に地域の住民や企業の出資を得て設立される基金。町造り、高齢者介護、学童保育など、その地域に必要なサービスを、行政よりも柔軟に提供するために設立されることが多くあります。

・・・・・・・・・・・・・・・・

市民ファンドとして PV-Net には PV-Green ファンドがありますが市

民共同発電所建設などのために新たに作ろうと言う訳ではありません。

市民ファンドサポートという意味は各地で試みされている市民ファンドを活用して市民共同発電所作ろうとすることに対してサポートすることです。F I T法ができたことでその必要性は非常に多く、相談が増えていました。その為に当初から次の点を軸としてサポート体制を作り事業として作っていかうと考えて検討してきました。サポートの主眼として以下ことを基軸としました。

1 市民性

1) 市民主体を最大追求する。

2) 行政と企業等との協働も具体化する。

2 地域性

1) 地域主体で進める。

2) センターによるさまざまな課題の共有と調整を図る。

3 採算性

1) 買取（F I T）法内容によるのでその決定を待つ。

2) 基礎となるお金（ベースファンド）が得られるような協賛団体や企

業との連携も考える。

3) 5～7年償却を目指す。

4) 配当率は市民が納得するものとする。

4 持続性

1) 段階的に運用を広げていく。

2) 継続的運営ができる体制としていく。

この基本的軸は今も変わっていません。

サポートセンターの目的は「広く市民から、市民共同発電所建設の為の出資を呼びかけ、市民共同発電所の建設を拡大するためのサポートを行う」としました。

サポートする市民ファンドの内容は次のようなものがあります。

1. 匿名組合方式

2. 借入金方式

3. 適格投資家方式

4. その他

<現在サポート中の事例>

表の通り全国にまたがってサポートが広がっています。

進行中及び問い合わせ取組例	場所	kW	完成予定(目標)
静岡「伊豆の国電気の畑」発電所	伊豆の国市	55kW	2012年6/28★
野田村だらすこ発電所	岩手県・九戸郡野田村	48kW	2013年3月
長野県・小諸エコビレッジ発電所	小諸市甲(旧港区高原学園跡地)	13.4kW	2013年3月
中津川・恵那山おひさま発電所	岐阜県中津川市	48kW	2013年3月
REうつくしま発電所	(福島県・喜多方市)	200kW	2013年3月
東京都小平市小平発電所	東京都小平市	12kW	2013年3月
秋田県秋田市	秋田県秋田市	1.6MW	2013年
★「伊豆の国電気の畑」は9月より売電開始中。 上記の他に(11月10日現在)相談及び、問合せ有・・・宮城県加美町、山梨、千葉、静岡、滋賀、福岡など			

＜市民ファンドサポートセンターのサポート内容＞

市民ファンドサポートセンターでは実際にサポートする項目を下の表にまとめて示します。

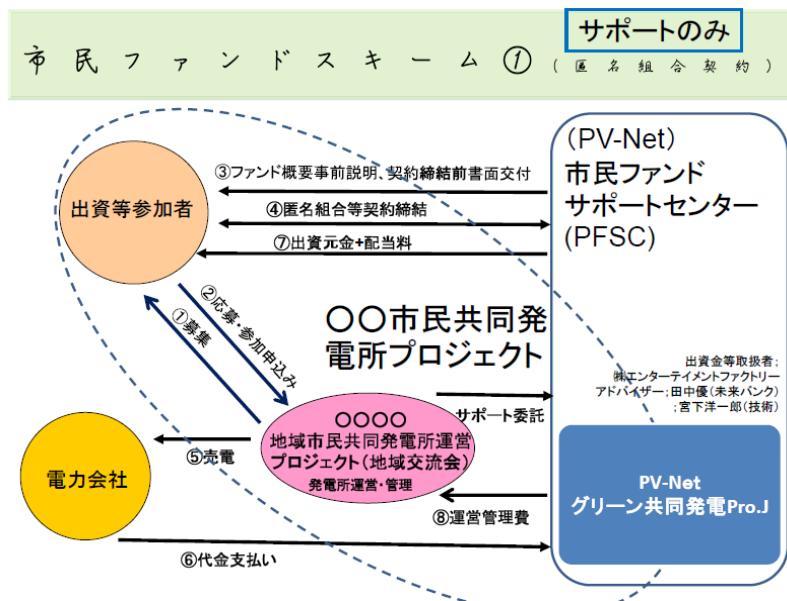
市民共同発電所を作る時、運用する時、運用後 10～20年間のフォローについて相談を受け付けます。

●サポート内容

	分類	項目
1	全体企画サポート	一般的相談サポート
		一般的解説指導
		現地調査・概略提案
		企画書作成サポート
		契約書雛形作成および契約サポート
		全体企画と建設設計監理
2	金融・会計サポート	出資等相談サポート
		出資募集サポート
		会計事務サポート
3	技術・保守サポート	設計サポート
		資材調達サポート
		申請・事前協議代行サポート
		データ収集・解析・不具合管理
		現地管理サポート
		定期検査・保全修復
		電気主任技術者等の資格者紹介

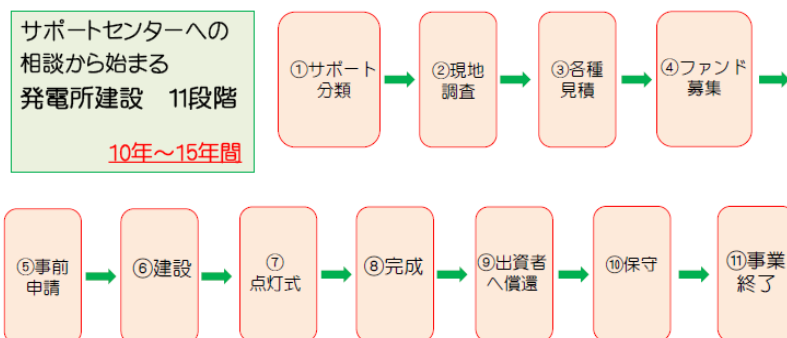
＜サポート時の流れと体制図＞

市民共同発電所を作りたい人たち・団体に対してのサポートと市民ファンドへ出資をしたい人々たちや団体へのサポートのそれぞれの流れを下記に示します。この流れにこだわらず、相談を受け付けています。

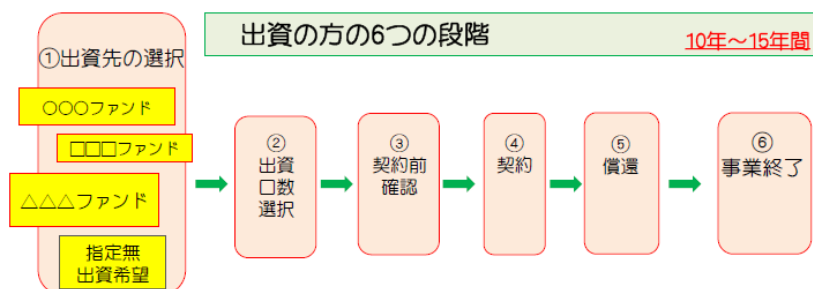


全体のスキーム図●

市民ファンドで市民共同発電所をつくりたい人達



市民ファンドに出資、あるいは参加したい人達



太陽光発電所ネットワーク 2012 年度通常総会

第 1 部

開会宣言そして**代表理事挨拶**を藤井岩根代表からいただき総会はスタートしました。

“原発”という負の遺産を後世に残さない社会作りを目指す為に太陽のエネルギーをうまく使った安心・安全のエネルギー体系を我々は知恵を出し合って作っていかねばならない。その為に PV-Net の役割はどういうものだったのかを今ここで再確認していこう。メガソーラーが多く語られる現在、儲かる儲からないの話ではなく PV-Net 独自の観点から議論を進めて行きたいと思います。(藤井代表理事：談)

理事紹介では全員前に御登壇いただき一言ずつコメントも頂きました。下段写真右から藤井代表理事・野原副代表理事(愛知より)・横谷副代表理事(横浜より)・都筑専務理事(事務局長)・梅澤理事(群馬より/財政部担当)・武田理事(愛知より)・田中稔理事(東京)・國井理事・松田理事(埼玉より/普及広報部担当)・岸本理事(関西より)・田中東紀男(静岡より/

組織部担当)と一同集合です。

議長選出で藤井岩根代表理事、野原副代表理事が選ばれ、**議事録署名人と資格審査委員を選出**では

議事録署名人に神奈川地域交流会世話人岡野庄太郎さんと田辺啓平さん、資格審査委員には埼玉地域交流会世話人國井範彰さん、静岡地域交流会世話人田中東紀男さんと伊藤博文さんが選出されました。**定足数報告**は國井さんより出席は正会員 66 名に事前の委任連絡を含めた合計 710 名は 7 月 11 日時点の会員数は 2002 名の定足数の 1/4 以上を満たし総会が成立した旨を報告されました。

1号議案「2011 年活動報告」・・・2011 年度は 6 つの行動指針をもうけてきたが、その中でも復興支援～被災地報告では(a)自立運転が重要である(b)学校公民館等避難所に PV の設置が少なく携帯等通信手段の充電ができない等の内容がありました。又、被災地を離れ、国内全体では PV 普及が目立ち始めているが、さらなる市民に対する太陽光発電、省エネエコライフに関する政策提言や相談受付を行ってきたが、特に自治体関連では神奈川県への委託事業「神奈川

ソーラープロジェクト」(3 月終了)設置も大きな役割をはたしました。この様な相談活動の他に PV 環境価値の“見える化”、グリーン電力の普及・販売活動も報告されました。又、一般会員の強化、財政基盤の強化も述べられましたが、各地域の活動報告は議案書に丁寧に報告されているように今年も活発な活動が行われてきたとの報告がありました。

2号議案「2011 年決算報告」の質問コーナーの場では報告書の体裁として事業別に見やすくないかの要望・意見も出されました。

3号議案「2012 年活動方針」では太陽熱も含む太陽エネルギーが持つ有形無形の環境価値の活用した「スマート・ソーラー・ライフ」の提案がなされ、独立系の発電パネルから市民共同発電所作りまで幅広く今期の活動指針が話されました。各地域の今年の展望、PV-Green の展望も話され、**4号議案**「2012 年度予算」へと続き、休憩は挟んで第 2 部に移りました。

休憩時間には静岡市民共同発電所の掲示物コーナーや各書籍の販売コーナーも設置されておりました。



<國井理事は定数報告準備の為この時、↓この写真に入っておりません。>

太陽光発電所ネットワーク 2012 年度通常総会

第 2 部

宮古市における被災報告を

菅原省司様から



2011 年 3 月 11 日午後 2 時 46 分、みなさんはどのように過ごしていたのでしょうか。私は自宅隣にある事務所で、2 日後に開催する予定だった、アウトドアコーチ養成講座の打ち合わせ中でした。当然、打ち合わせは中止に。自宅に戻った私は、現状を確認しようとテレビを付けましたが、一瞬で停電してしまい、ほどなくして揺れが収まったのです。津波は来るのか？ 来ないのか？ 情報がまったくないなかで家内と相談し、再び帰って来ることを信じながら、身一つでクルマに乗り、家から 3 分場所になる高台のお寺に逃げ込みました。到着後、私たちが逃げてきた道は渋滞し、30 名近くがそのまま波に飲まれてしまったといひます。岩手の人たちは普段から津波に備えていたはずなのですが、それでも多くの人は、到達までに 1~2 時間はかかると思っていたわけです。ところが今回の震災ではわずか 30 分で来てしまいました。さらに、安全だと信じられていた宮古市の巨大防潮堤もあつけなく壊れてしまった。ニュースでは当初 60 センチと言われていた津波の高さは、3m、6m と次々と訂正されていきました。最初の情報

だけを聞いて、逃げなかった人も多くいるでしょう。自然災害の前では、安全と言われていることも、すべて鵜呑みにしないほうがよいのかもしれない。

地震が起きる直前、私は乾いたような地鳴りを感じました。いま思えば、あれが大地震のサインだったのだと思います。それから停電。電気というのは、何か異常があった時に止まるようになっていそうですね。数分経っても復旧しなかったため、ただごとではないと判断して、私たち夫婦は逃げました。津波情報も最後まで聞いていたら、逃げ遅れてしまいます。ですから情報というのは参考にする程度で、災害への対応で大切なのは、自然への畏怖の気持ちであったり、危機を察知する動物的な感覚が、最終的には重要なのだと実感しています。

いまや、日本のどこで災害が起きてもおかしくない時代ですが、「必ず起きる」ことを前提に準備してください。パニックになると、正しい行動を判断することが難しくなりますが、いざという時のシミュレーションを頭の隅に置いておくだけで、パニックは半分になり、冷静な判断が取れるようになります。災害に対しては、ただいたずらに恐がるのではなく、どうか正しく冷静に恐れていただきたいと思います。

岩手県内の PV 普及について～震災から何を学び、どう生きるか～

NPO 法人環境パートナーシップ いわて 佐々木明宏様から



電気・ガス・ガソリンといった大規模システムのライフラインが途絶えてしまうと、点滴が止まるように命も途絶えてしまう——。東日本大震災は、私たちの生活がいかに脆いバランスの上にあることを思い知らせてくれました。その一方で、廃食油から作るバイオディーゼル燃料で走るクルマが、ガソリン不足の被災地で、物資を運ぶ助けとなりました。つまり、いざというときに命を救うことができるのは、大規模システムに支えられたエネルギーではなく、私たちの身の回りにあるわずかなエネルギーだということがわかったのです。このことは、震災を経験した私たちが今後どのようなエネルギーを選択するのか＝どのような社会を選ぶのか、という問いへの 1 つの答えと言えるのではないのでしょうか。岩手県では現在、災害時にも電力供給が可能な太陽光発電システムの導入を進めようと、補助金交付を行なっています。家屋に被害を受けた方が、建物の修繕や新築を行う場合を対象としていて、その数は伸びています。今後は、エネルギーを自給することが、被災地での仕事づくりにつながるプロジェクトの必要性があると考えており、屋根貸しや市民出資など、さまざまな事業の可能性を検討中です。

会員の広場

今回、リニューアルした「会員の広場」。みなさまからの投稿がクロスする、自由気ままな交流の場となることを期待しております。再開第1回目の募集テーマは「節電しても豊かな暮らし」。これからも引き続き必要とされる省エネ・節電の取り組みですが、ケチケチ、ガマンだけでは長続きしませんよね。ご紹介する5名の方々は、考え方を変えるだけで簡単に実践できる節電方法から、自作の蓄電装置のアイデアなど、さまざまな方法で日々の省エネ・節電に取り組んでいました。

省エネ術 “生活家電は最良のパートナー・・・西田三千男

3.11 後、エネルギー問題は常態化し、長期にわたり夏季・冬季の節電対策は必至の情勢です。みなさんのご家庭では、いろいろな知恵と工夫で乗り切っていると思いますが、さらなる意識変革が必要です。そこで、今年8月関西地域交流総会で「話題提供」としてお話した内容の要点のみを紹介し、みなさんのご参考になれば幸いです。

「省エネ」取り組みは、3つのステップで実践をしましょう。(1) こつつこつ省エネ：エネルギー消費の無駄を賢く省き、知恵と工夫で省エネ。(2) ものぐさ省エネ：優れた省エネ家電への買換えや住まいの断熱対策で一気に省エネ。(3) 創エネで省エネ：自然エネルギーの恵みを生活に活かし尽くす省エネ。

PV-Net 会員の方は、これらすべてを取り組み済みであることは承知していますが、その取り組み深度はさまざまだと思います。そこで私が提案する、さらなる意識改革について述べます。普段みなさんが使っている家電機器を単なる“物”と捉えて使っていませんか？ 私たちが豊かな暮らしができるのは、家族があり、家電機器があるおかげです。家

電機器を”物”と捉えたと、「使い方」という考えしか及びません。そこで視点を変えて、“家族と同じパートナー”と考えてみてはいかがでしょうか。そうしたら「使い方」のほかに「扱い方」「いたわり方」が加わります。家電機器を擬人的に考え、“最良のパートナー”として捉え、機器に対する愛情ある考え方が加われば、さらなる省エネと機器寿命が延びるという一挙三得効果が生まれます。この考え方は、昔私たちの先祖が生きるために必要な“自然”や“あらゆるもの”に対する敬愛の念を培ってきた素朴で純粋な思想なのです。現代の人はそれを忘れていませんか？ ということです。まずは、家電機器から始めて、身の回りにある“あらゆるもの”に思いを巡らせていきましょう。生活の仕方が変われば、いま以上の好循環がきっと芽生えてくると信じています。

節電は仲間でやると効果的！

・・・林 彰一

この夏は、ちょっと仰々しいですが、「しながわネガワット発電所」試運転プロジェクトなるものにチャレンジしてみました。ご承知の方も多いと思いますが、ネガワットとは、節電した分は同量を発電するのと同

じ効果だということを意味する、最近注目のキーワードです。お金を出しあって本物の発電所を設立するわけではなく、いわゆる節電クラブのことで、“仮想の”草の根発電所といったところです。7月から9月までの3ヵ月間、電子メールでやりとりしながら試運転してみました。急な思いつきだったため、結局5家族という小さな規模の節電グループ活動でしたが、得たものは大きなものがありました。

成績については、今年の酷暑にもかかわらず、昨年より11.2%もみんなで節電し、ひねり出した3ヵ月間のネガワット総発電量は、575kWhになりました。

数字以上に印象的だったのは、みんなと一緒にやることの意味についてです。5家族それぞれ生活事情や設備事情は異なり、やむを得ず消費量が増える月も出てきます。「今月は足を引っぱった」と思っても、他の家族がそれをカバーして余りある成績を残してくれたり、スポーツの団体戦さながらのチームワークが発揮されました。ひと家族だけだったなら、うまくいかない月が続けば挫

折しかねません。みんなでやれば、同じような気象条件で他の家族はどんな工夫で乗り切ったのか知恵を借りることもできます。

例えば、あるご家庭のまねをして、日射の強い時間帯に南西側の使っていない部屋の雨戸を閉め、居室では極力扇風機を使う暮らしをしたら、効果抜群でした。

このようにして成果が出たご褒美は、仲間ができた楽しさと、電気料金の節約、そして達成感でした。

節電効果の高い空調の省エネ ・・・驚尾功治

家庭での電力消費がもっとも高いのが空調ですので 我が家ではエアコンの空調効率を考えています。冬は暖気が天井に、夏は床に停滞しますので、「エコシルフィ」という対流ファンを天井に取り付けることで、温度ムラをなくし、設定温度の適正化を実現しています。扇風機・サーキュレーターですと拡散した風になり、部分的な解消にしかありません。直線的な微風が癒しの風を創造してくれていますので、とてもさわやかですよ。

さらに、究極の省エネはエアコン使用しないことと、日差しをさえぎり、風を取り入れる、パッションフルーツのグリーンカーテンを植えました。ゴーヤよりも成長が早く、フルーツが味わえます。このほか、太陽光のモニタリング・省エネナビで見える化をして、節電意識を家族で楽しみながら HEMS 構築を推進しています。

使わなければならない電気の 省エネ法・・・中川善樹

ムダに電気は使わないのは当然

ですが、使わなくてはならない電気もあります。見える化ツールの PV モニターや省エネナビ、さらにインターネットやネットワーク機器があります。これらの電気はできれば安い電気を使いたいと考え、安い夜間電力（23 時～7 時：11.82 円）や太陽光発電の余剰電力をうまく使って蓄電池、電気代の高い朝（7 時～10 時：25.20 円）、晩（17 時～23 時：25.20 円）にシフトして使うことのできる“タイムシフトマシン”を自作しました。

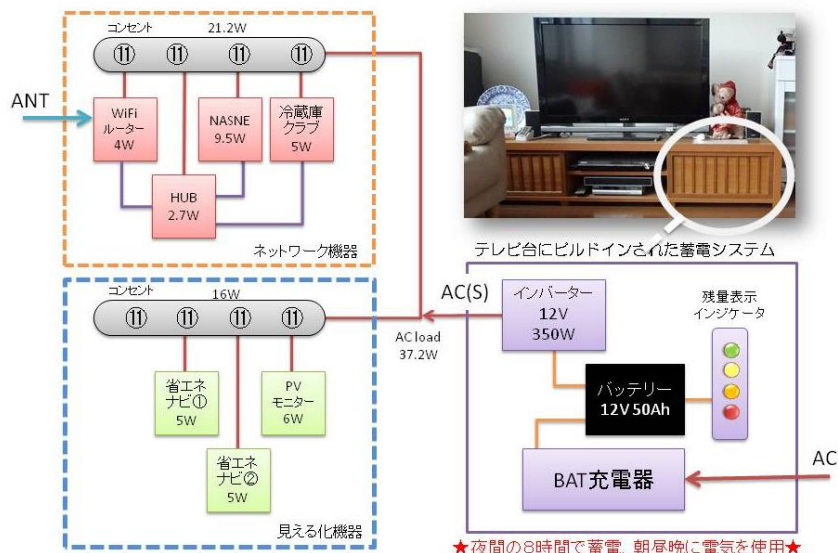
バッテリー充電は 8 時間、放電時間は負荷機器の消費電力なら約 11 時間可能です。下図にシステム構成と負荷機器の接続図、そして写真は蓄電システムを暮らしの中にそれとなく溶け込ませるためビルドインされたテレビ台です。

電化製品 昔はなかったという視点で・・・佐藤史子

私はもともと洗濯をこまめにしませんでした。昭和 30 年代まで洗濯機はなく、母が手洗いしていて大変だったのを見てきました。お風呂も家にはなく、6 人家族では銭湯にもこまめには行けなかったと覚えてい

ます。銭湯に行ったら下着を着替えろという感じだったので、「着たら洗濯」ではなく「汚れたら（それほどではないが）洗濯」という意識をずっと持っています。洗濯機が登場するようになってからは、着たら毎日洗濯するという習慣ができ、行き過ぎた清潔志向になっているように感じます。震災にあった方々は、何週間も洗濯も入浴もできなかったと聞きます。夏に汗をかいたものは手洗い、その他はだいたい 1 日おきに洗濯で充分ではないでしょうか。もちろん大人数の家族や、乳幼児のいる家庭、スポーツをやる人や屋外労働の人がいる家庭などは例外ですが。いまは全自動洗濯機が当然のように普及していますが、私は二槽式を使っています。最後の水を有効に使うことも節約になります。洗濯後脱水時間を短くすればアイロンをかけないで済む衣類もあります。電化製品があるから使うのではなく、昔はなかったという観点で見ると、楽しく節約ができるということ、そして掃除などは、電気を使わず手を使う方がきれいになるということも発見しました。

家庭内24時間機器向けの蓄電システム



第2回自然エネルギー学校 in 小諸エコビレッジ

9月29日、30日の二日間、小諸エコビレッジ秋祭内にて「第2回自然エネルギー学校」開催が催されました。

第2回目となる今回のテーマは、「市民ファンドを利用したミドルリスク・ミドルリターンの市民共同発電所の作り方からパネル設置、メンテナンスの実務の現場まで」がテーマです。

9月29日	
11:10~11:20	日程発表・業務連絡等
11:20~12:00	【市民共同発電所サポートセンター役割】 □ 都筑建
13:00~13:40	【座学講座1】 市民ファンドの出資について □ 島田政実(株エンタテインメントファクトリー) □ 塩澤三木夫(PV-Net)
13:40~14:00	【座学講座2】 中規模太陽光発電設備 □ 園井範彰 (PV-Net)
14:00~14:20	特別報告① 中規模PVの不具合候補地について □ 伊達博 (システムジェイディ)
14:20~14:50	DVD映像上映 架台設置に関するタキゲン
15:00~16:30	【実学講座1】 □ 浅井 順(日本カーネルシステム) □ 宮下洋一郎・園井範彰
9月30日	
10:00~10:10	前日・実学講座1の結果発表 □ 宮下洋一郎 □ 都筑建
10:10~10:30	特別報告② □ 野村裕宗(ソーラーフロンティア)
10:30~12:00	【実学講座2】 「企画設計の初歩」 □ 宮下洋一郎 □ 都筑建
13:00~14:30	【特別編/シンポジウム】 パネラー/ □ 中島恵理(長野県地球温暖化対策課長) □ 岡本一造(こもろはす倶楽部) □ 伊藤麻紀(小諸エコビレッジ理事) □ 藤川まゆみ(NPO法人上田市民エネルギー代表) □ 伊藤博文(伊豆の国市民共同発電所、静岡世話人)

7月よりスタートした固定価格買取制度によって注目を集める市民発電所事業において、市民ファンドを活用した資金集めや運用方法、さらには発電所づくりの具体的な実務の基礎を、約50人の参加者とともに2日間じっくりと学びました。



＜一言も聞き漏らさないよう真剣な表情＞

短い告知期間にも関わらず多くの方

が集まり、九州、東北と遠方からも足を運んだ方もいらっしゃいました。



＜I-V トレーサーを使い参加者自身でパネルの電流・電圧出力特性を測定＞



＜故障診断装置を使ってチェック中＞



＜太陽光パネルの設置場所を探し

エコビレッジ内を散策＞



＜設置できそうな場所を

模造紙にまとめていく＞



＜3班に分かれての発表＞

参加者は、PV-Net 会員の方から一般の方、仕事やNPOで発電所事業に取り組もうと考えている方など、職業も年代も住んでいる場所もさまざま。同じ志を持った人たちが一堂に集まったということもあり、夜の懇親会も大いに盛り上がりしました。



＜自己紹介コーナーでは各人の参加への熱い想いをたっぷり語っていただきました。＞

台風17号の接近で天気が心配されるなかでのイベント開催でしたが、参加された方々の熱い想いに応えるように、何とか持ちこたえてくれました。PV-Net にとっても、地域の方々の市民発電所事業への感心の高さ、期待をヒシヒシと感じた2日間でした。

#2 自然エネルギー学校参加者アンケート

2 日間の参加者アンケートから抜粋してみました。

【設問】参加理由や動機

○市民ファンドを検討している市町村がありそこに活用したかった○川崎市や福島県内で市民発電所プロジェクトを進めているが、経験者が少ないため、多くの事例から経験を学びたいと思った○知人に教えてもらい、市民ファンドの具体的な作り方を学びたいと思った○農業活性化企画に取り組んでいるなか、PV-Net の案内を聞き、参加した○地域で実務を行う際に、経験者の実地での取り組みを直に聞いたかった○PV について多面的に学ぶため○第一線の方々から実学講座で学べる絶好の機会だから○市民ファンドづくりを計画している○太陽光発電を使用していることと、PV-Net からの誘いがあり参加した。交流と企画の概要を知りたかった○独立系設置のため参考になることがあればと思った。個人で全量買取向けのシステムを運用するための参考にもしたい○市民共同発電所の実現に向けた知識・情報を得るため。そのための交流も（50 代男性）○市民共同発電所の建設に興味がある○実学&セミナー、市民ファンドの内容を体験したくて応募○市民ファンドの内容等の講義を聞いたかったから○ファンドの勉強をして、事業化の参考にしたい○埼玉県での市民ファンド立ち上げのために勉強に来た○ファイナンス、メンテナンス等の実践的で役立つような内容だったので○自宅に 2 系統 15 kW を設置しているが、今回の FIT で自宅で 20 kW 程度を設置したいと考えているため。さらに地元で中規模 50kW 程度が設置できればと考えている○市民共同発電所を実践しようと考えているので○事業の予備調査として参加。

アンケート回答者内訳

男性	20 代	0 名
	30 代	4 名
	40 代	3 名
	50 代	6 名
	60 代～	6 名
女性	20 代	0 名
	30 代	0 名
	40 代	1 名
	50 代	0 名
	60 代～	1 名
合計		21 名

【設問】参加しての満足度やご意見を

○非常に内容が濃くためになった○内容についての積み重ねを行い、もっともっと充実させていただきたい○座学では広い範囲を学ぶことができた。実学も太陽光発電システムの設置を具体的にイメージできるきっかけとなり、また仲間も増え、大変楽しく充実した時間をいただいた○総合的に（ファイナンスから技術、実践まで）学べたのが良かった○盛りだくさんで多くのことを学ばささまざまな方とコミュニケーションさせていただいたことも良かった○エキスパートの講師の方々をよくこれだけ揃えられたと思う。市民ファンドで十数年運用、運転していくなかで、リアルに発生する不具合への対応ポイント、設計段階や竣工時初期値の計測記録の必要性もよく理解できた。本当に実践的で濃い内容だった○質問の時間をしっかりとってほしかった。内容が盛りだくさんで、お得ではあったが、一つひとつのテーマが薄まった気がする。それが少し残念○PV-Net の活動、参加者の各々の活動、情報、PV に関する事例を知り得て、大いに参考になった。○メーカーの方の説明がとても参考になった○10kW 以下の小規模なものを目指しているが、十分役に立つ内容でした○満足。時宜に応じた内容だった○実地体験型セミナーを今後とも体験したい○島田さんの話をもっとゆっくりと詳しく聞いたかった○市民ファンド、匿名組合について知識を得られた。不具合検知は具体性があり良かった○I-V カーブの波形説明がよかった。

【設問 3】プログラムのなかで良かったものを 3 つ挙げてください（複数回答可）

市民ファンドの役割（都筑）	13 名
出資について（島田・塩澤）	12 名
PV の系統連系と発電量確保（國井）	13 名
PV の不具合検知について（伊達）	9 名
太陽光発電を測る（宮下、浅井）	10 名
ソーラーフロンティア（野村）	1 名
企画設計の初歩（宮下、都筑）	5 名
シンポジウム	3 名

各地の発電量データと太陽光発電所マップ



2012年11月9日
現在の会員総数＝
2,625人

※賛助会員（6法人）及びこれまでの
準会員も含まれます。

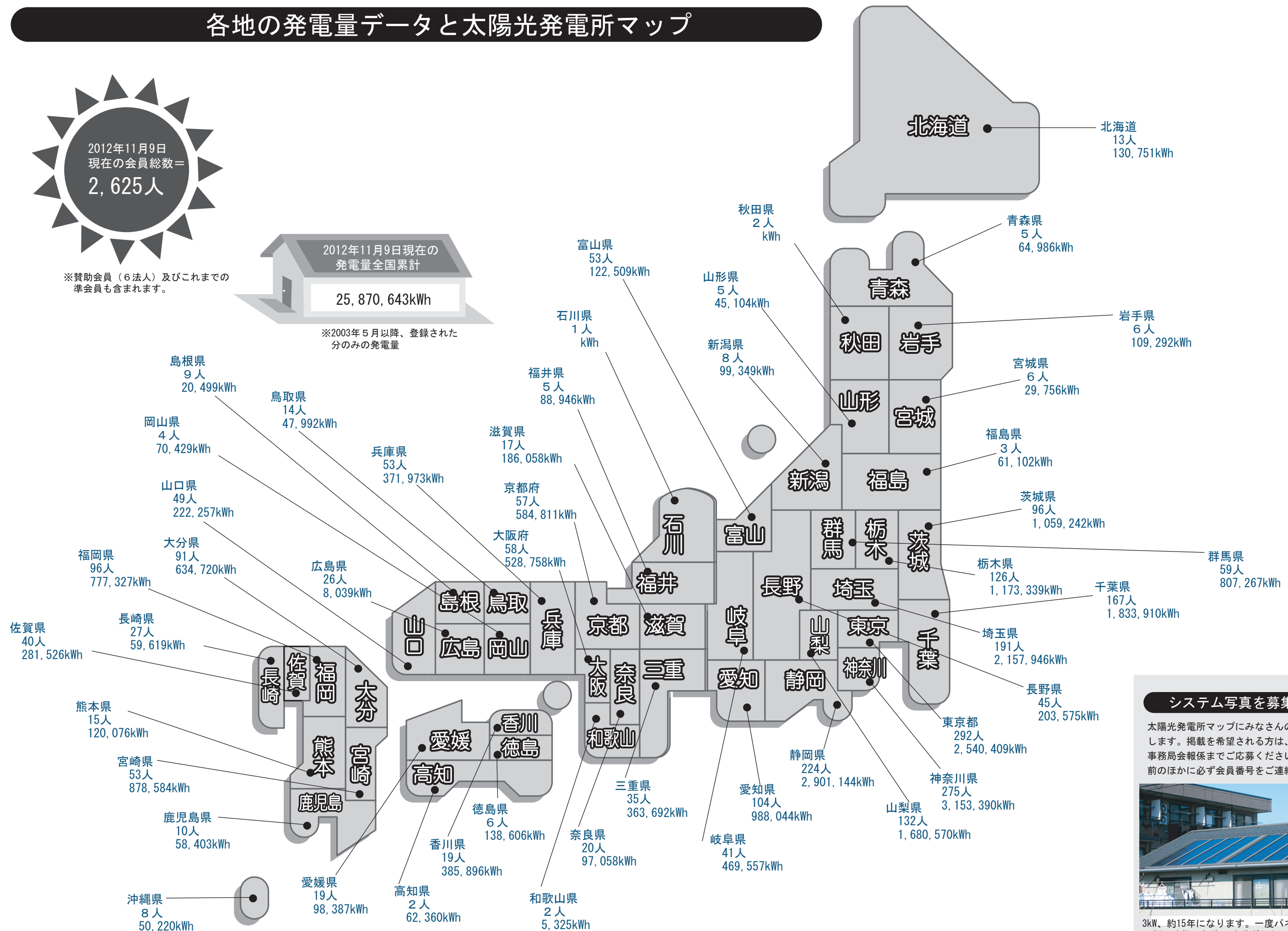


2012年11月9日現在の
発電量全国累計

25, 870, 643kWh

25, 870, 643kWh

※2003年5月以降、登録された
分のみの発電量



システム写真を募集します

太陽光発電所マップにみなさんのシステム写真を掲載します。掲載を希望される方は、写真にコメントを添えて事務局会報係までご応募ください。ご応募の際は、お名前のほかに必ず会員番号をご連絡ください。



3kW、約15年になります。一度パネルを入替えました。西側の建物で午後3時過ぎから一部影になりますが、毎年三千以上の発電が続いてます。(A03069719山梨)

発電所長のつぶやき

毎月の発電量を送ってくださる会員さんのコメント（事務局への通信欄）を「発電所長のつぶやき」として発信します。

●8月の通信欄より…

昨年同様日照時間多かった、発電量としては好調であった（東京都 W さん）。・いつもお世話様になります。お陰様で順調に発電しています。8月は好天（暑すぎましたが）恵まれ過去最大となりました。先にお願ひしましたが PV カルテ今年でいっぱいです新しいものを一枚送り頂きたく、これらを copy を使いたいと、よろしく（神奈川 K さん）。・5月15日に再度故障（E-50）したが、業者に修理してもらった（修理費0円）今回は1日で回復。（神奈川 A さん）。・遅くなりました、申し訳ございません（福岡県 H さん）。

●9月の通信欄…

先月よりパワコンの数量と、総発電の数量（発電量）が同じくなっている！（愛知県 O さん）。・先月の全量買い取制の質問御回答ありがとうございました。（東京都 M さん）。・いつもお世話さます。（神奈川 K さん）。・よろしく願ひます（千葉 K さん）。・特に有りません（東京 K さん）。・今年の酷暑つづきだが、9月に入っても余り発電量が落ちずに発電したのと、入浴法も変えた為、購入電力も節減できた。（東京都 W さん）。・先月のご解答のお電話を頂きありがとうございました。（岐阜県 F さん）。・9/25 メータ測定員より今月は売電量が少ないと言われ過去月を調べるとびっくり。目下シャープへ調査依頼中です。が9/30現在連絡ありません。（茨城県 K さん）。・こんにち、いつもありがとうございます。ついついためてしまいました。ごめんなさい。トラブルのないように思います。台風の影響が少なければ良いと思います。（静岡県 S さん）



●10月の通信欄…

10月は過去最高の発電量でした。（千葉県・Kさん）。・いつもお世話にさます。寒くなってきました、皆様にご健勝をお祈ります。（神奈川 K さん）。・PM3:00 現在での降雨日4日と少ない10月としては最高のPV量でした、従って発電自給率も100達成。今月も新計器（H22）取り付けの検定NO, 1N02の発電量各KW補足済み。（東京都・Wさん）。・施工時に2階のコードを束ねて接続箱へ降ろす際、まとめるホースの口を上向に設置したため、コーキングを施してあっても隙間から雨水が入る。自分でペットボトルを切って傘にしてホースの上にかぶせた。（奈良県・Fさん）。・変換器当時の製品が無く屋外品とのこと、交換に10万円要求されております。10/29日建屋調査に来ましたがシャープ社員は来ず、いつ交換できるか不明です。保証期間が過ぎるとこんなものなんですか!!（茨城県・Kさん）。・大変良好な発電しています。（愛知県・Oさん）

COLUMN-1

（写真提供：日比谷花壇）

イルミネーションのグリーン電力化は街の身だしなみ



今年も PV-Net グリーン電力証書の全国からの申し込み集中・・・熊谷ニッソーモール、イオン（水戸内原/木曽川/日の出/太田/むさし村山/甲府昭和）、佐賀（とす/ミラージュ J-Styl）、八王子・東急スクエア、渋谷マークシティ、イーアスつくば、東急キャピタル、大阪御堂筋イルミネーション、小諸光ファンタジー等々、まだまだ全国制覇ではないですが、どんどん増やしていきましょう。K.Fujii

昨今ほど、P Vが再生可能エネルギーの代表として持ち上げられ、喧しいのにはあきれるばかりだ！ こちららは、13 年前からP Vを設置して、余生を送っているのだ。P Vを金儲けの道具として、また、原子力の代替えなどと嘯き、持て囃している胡散臭い輩には、トホホ・・・だ。三丁目の夕日よりも前の時代。街頭テレビが全盛の頃、NHKラジオで、毎週土曜日の午後7時半から、とんち教室（今の笑点？）に、折句があった。太陽光という題で、作ってみよう。

「太古から 陽はまた昇り 光射す」

閑話休題。

P V川柳に行こう。今回も、川崎の五右衛門氏から、傑作を頂戴した。

「省電は やればやるほど 新しい」

「無い電気 使わないのが 心意気」

この2句は、2月全員集合イベントの五右衛門氏感想。

「「民間」で 原発実態 白日に」

この句は、2月28日にまとまった、民間の立場から福島第一原発事故の原因を調べる「福島原発事故独立検証委員会」報告書に刺激を受けた作品という。

「大雪で 快調PV 一休み」

「川崎の 五右衛門風呂は 絶好調」

五右衛門家のお風呂は、太陽熱温水器で追い炊きはバイオマス燃料（薪のこと）でCO₂の発生は「ゼロ」と粹がっています。

三丁目の夕日よりも前の時代は、今のJ Rを省線とか省電といったのをご存じだろうか。

埼玉のW-X Y Z氏のご紹介しよう。

「メガソーラー よりも蓄電池 のが先だ」

「カナダから 再生エネルギー 直輸入」

これは2月全員集合イベントのW-X Y Z氏感想だ。

一首目は、太陽光は結構だが、雨天や夜間の電力の手当はどうする。これこそ、原子力推進派を喜ばすだけだろう。太陽の仮面をかぶった原子力推進派は、われわれ PV-Net の仲間なの？二首目は、日本と時差が12時間違うカナダから電力を輸入すべしという氏の持論とか。何でもカナダの電源の60数%は水力で、時差が変わらない米国に2010年は437億kWhを輸出している。海底ケーブルで送電するわけだが、日本でも津軽海峡線の実績や松島奈良尾線の建設が知られている。サイエンスライターの私としては、1日も早い実現を願っている。＜松田広行＞

COLUMN-2

映画『シェーナウの想い』上映会

10月3日、東京・神田神保町の専修大学で、上映会を開催しました。専修大学社会科学研究所とPV-Netとの共催。この夏、PV-Netで専修大学の学生をインターンシップを受け入れたことから、この上映会は学生達が中心となり行なわれました。もう見られた方も多いと思いますが、映画はドイツ南西部の街・シェーナウ市の住民グループが、チェルノブイリ原発事故をきっかけに、自然エネルギーの電力会社が誕生させるまでを追ったドキュメンタリー。日本人にとって決して他人事ではないテーマとあってか、平日の夜という日程にも関わらず、

大学の先生方も含め、たくさんの人が駆けつけてくれました。

(写真は上映後の都筑さんの講演とトークセッション)



Two toy cars constructed from LEGO bricks are shown on a reflective surface. The car on the left is primarily red with a yellow interior and a black roof. The car on the right is primarily green with a yellow interior and a black roof. Both cars have white wheels and are positioned side-by-side.

[illegible]

係に甘んじている。また大手電機メーカーや、住宅メーカーによるスマートハウスも、自分たちの関われる範囲は無く、智恵、技術丸ごと買うことで手に入れることになる。特別な専門家集団しか理解できないシステムは屋根の上の PV の不具合を放置することになり、メンテナンスフリーをそのまま鵜呑みにすることになる。原発ムラを容認してきた背景ともつながるだろう。風穴を開けるのは一人ひとりが声をあげ、また智恵をつけていくことなのだろう。

(岸本康子)

兵庫から

我々は50名程のメンバーですが、相変わらず順番に、「財団法人 ひょうご環境創造協会」に、1～2名勤務しています。

4年目ですが延べ9名になり、11月からは又新たなメンバーが、1年間、太陽光発電相談指導員として、窓口相談を担当します、今回からは、ソーラー発電のみではなく、ソーラーエネルギー全般についての相談指導に当たります。又メンバーのうち7名は創造協会OBとして、相変わらず県のイベントや出張コンサルに駆り出されています。

世話人会は、毎月開催し、補助金受給で義務付けられた行事や、新たな活動プログラムの検討及び打ち合わせをします、エコプラザには多くの部屋が有り日曜日でも無料で開放されているので、JR神戸駅前という立地条件とも相まって世話人の出席率も良好です。

今年は4月22日に金澤和夫兵庫県副知事、泉美江子創造協会環境創造部長を招いた昼食会を開催、30日

には“スプリング8”で「ワット神戸」等他のNPOと共同で勉強見学会を行いました。「LEDレリーフ製作」の講習会は今後もシリーズで行います。

昨年の海外活動補助金申請で御縁の出来た環境再生保全機構から10月13、14日の活動報告会（於池袋サンシャインシティー）に出席するよう通知が有り、北方代表が国際環境協力分野に参加しました。

来る12月2日（日）には今年度フォーラムを「PV-Net Hyogo主催、ひょうご環境創造協会共催」で開催します、今年は金澤副知事、加藤工博に講演を依頼し、県は元より、各市町村のソーラープラント事業担当者が出席して、兵庫県を挙げての、勉強会に成ります。



写真は7月18日、移動月例世話人会を六甲山上の神戸ゴルフクラブ（日本最古）で開催、その後西宮市の20KW発電設備を見学しました。世話人全員参加です。（北方龍一）

静岡から

「伊豆の国電気の畑」順調に稼働 伊豆の国市の山の中に設置した市民共同発電所は、9月10日東電との連系が終わり順調に発電、売電も進んでいます。

管理責任者の石川さんご夫婦が刈っても刈ってすぐに生えてくる草の退

治に苦勞しながらも守ってくれています。（石川さんありがとう）前にも紹介しましたが、この発電所はPV-Net が初めて所有する市民共同発電所です。特徴は、遊休地（元牧場）の有効利用であること、そして手作りであること、資金は1口10万円の出資（借入金）者を募ってできあがったことなどです。

設備能力は18・24kW、その周りには個人ユーザーの設備がありあわせて55kWのパネルが並びます。晴れた日は富士山が見え 緑とおいしい空気がいっぱい、山への昇り口には駒の湯という300円の日帰り温泉もあります。



11月17日には各地の希望者を募って見学会も開きました。1泊して楽しい交流会になりました。来春には草刈り体験ツアーなどをしたらと考えています。

多くの方に見に来ていただき、屋根だけでなく遊休地へのPV普及もすすむような、（この発電所が出発点でいま岩手県野田村の設置が被災地支援として取り組まれています）そんな活動も各地域で進んだら面白いとは思いませんか。（伊藤東紀男）



地域交流会報告

山梨から

報告を2点行います。①7月29日（日）に小瀬エコブースに出展しました・・・3年前から小瀬エコスタジアム実行委員会が、ヴァンフォーレ甲府の試合前にエコブースを設け、環境団体に依頼して環境啓発活動を行っています。今回は、PVネットが担当し、PVネットの宣伝の他、3年前に実行委員会が作成した「ソーラーカー」体験や人力発電体験等を行いました。「ソーラーカー」は、古くなった電動車椅子をリメイクした物で、太陽光発電パネルや軽い車体はサポーターや工業高校生が手作りしてできた物です。



エコブース活動の甲斐あって、甲府のスタジアムは他県のチームスタッフが驚くほど環境に配慮したスタジアムとなり、ヴァンフォーレ甲府もJ2優勝！J1復帰！22試合負けなし新記録更新中！という素晴らしい結果となっています。



②山梨県エネルギー政策への提言・・・山梨県は2050年にエネルギー自給率100%、CO2ゼロと言う目標を達成するため、9月県議会にて横内知事が、「山梨県エネルギー局」の設置、その下に、学識者等で作る「山梨県地産地消エネルギー推進会議」を置くと言うことを表明しました。すでに先行して推進会議は動いているので、山梨県地球温暖化防止活動推進センターが、再生可能エネルギー普及に取り組む団体等に声をかけて、センターのブレインであり推進会議メンバーでもある山梨大学名誉教授に、それぞれの団体から提出された提言を集約して11月の県推進会議に持って行っていただくことになりました。

PVネット山梨世話人会も、設置後のメンテナンスの重要性、グリーン電力証書の利用等について提出しました。11月の県の推進会議後また名誉教授から報告をいただくことになっています。（芦澤公子）

東京から

○市民共同発電所のモデルづくり・・・小平市民有志が立ち上げた「こだいらソーラー（NPO認証中）」と協働で出資型市民発電事業のモデルづくりに取り組んでいます。準備会は既に11回を数え、毎回10名前後の出席者で活発な意見交換をしています。最年少は現役大学院生の大学院生Sくん。先行者の方々から「場所探しが大変だよ」とお聞きしていたのですが、小平のメンバ

ーのツテで設置場所はあっさり見つけられました（これぞ地域力！）。陸屋根なので設置費が割高であることに加え防水工事費がかなりかかる見込みでしたが、アンカーを打たない施工方法の業者さんがこれまた小平のメンバーの紹介で見つかり、何とか10年以内に費用回収できる見込みです。

メガソーラー乱立時代にPV-Netが市民発電所に取り組む意義は、高々10kWの発電容量を増やすことにあるのではなく、再エネ拡大に参加できる機会を、PVを設置可能な一部の人だけでなく地域の全ての人々に提供できるという点にあると思います。その意義を実践するためにも、広く一般市民から出資を募集したいのですが法律の制約をクリアするために苦労しています。

○PV設置者宅見学バスツアー・・・杉並エネルギー会議（市民団体+杉並区）との共催。区のマイクロバスをチャーターしてPV設置者宅3軒を訪問し、設置の動機や発電状況について生の声をお聞きしたり、カラーモニターで「電気の見える化」を体験してもらったり。最後は教室でソーラー入門ミニ講座。参加者が帰られる際の「ありがとうございました！」という言葉には満足感が滲み出ていました。

○ミニ見学会・・・世話人と一般会員との間のギャップを埋めるため、気軽に参加できるミニ見学会（パナソニックショールーム）を開催したところ、世話人以外で6組の申込みがありました。これを第一歩として、

地域ニュース発行、アンケート調査など、地道な組織活性化活動に取り組みたいと思っています。



【写真：カーポートに設置されたパネルを見ながら設置者の説明を聞く見学者】（田中稔）

千葉から

「恒例の地域フォーラムを開催」

毎年の千葉地域交流会主催フォーラムを10月14日(日)流山市生涯学習センターで開催しました。今回のフォーラムは「太陽光発電&省エネフォーラム in ながれやま」とし、再生可能エネルギーのみでなく、その前に取り組む「省エネ」を重視した内容としました。住まいや生活スタイルが省エネ化されていないのに太陽光発電を設置しただけでの「エコ」は間違いだからです。

最初は、今大きく動いているPV事業の中核を担い超多忙の太陽光発電協会・ソーラーフロンティア(株)参事の杉本完蔵氏から「PVシステムの普及拡大と最新情報」で講演していただきました。

PVの基礎から公的支援とその見通し、我々が参加できるPV事業周辺の具体的事項、固定価格買取制度ならびに新参入事業者のことなど、広く深い内容でした。海外商品の長期保証の考え方などの質問に対して、分かりやすい回答が印象的でした。次

は「住まいの省エネと太陽光発電の実践レポート」と題し長年自宅の省エネに取り組む千葉県地球温暖化防止活動推進員の平手彰氏に講演していただきました。省エネの「気付き」から身近な工夫を重ね、自分で窓断熱や太陽熱温水器を導入、それらの効果を電気、ガスなど光熱量(CO2量)で削減効果を確認後、リフォーム着手、PV導入ーの経過説明がありました。手作りの窓断熱(19カ所)は既成断熱窓に近い効果があったものの見栄えが悪かったこと(奥さんに不評)、PV資金をどう調達したかなど興味深い話ばかりでした。

後半は、市内企業・団体、市民団体、市から報告していただきました。都市ガス事業を展開する「京和(けいわ)ガス(株)」から地域貢献含む環境理念、活動方針、PV取り組み、省エネ・CO2削減、「子供たちのため、今何をなすべきか」などについて、PV事業を行っている「(株)ニチワ」から、現場を見ず屋根裏構造も調べずに見積書を出す業者への疑問、電力会社からの設備費用請求問題などについて、流山商工会議所「流山市太陽エネルギー活用センター」から、信頼される太陽エネルギー相談先としての機能強化、PV導入の的確提案など質の高いサービス提供について、「省エネ市民会議」から、団体発足の経緯、勉強会で実施したテーマ、会員の測定データから見たCO2排出比較(結論は「市民は節電に努力している！」)について、「自給エネルギーの会@流山」から「自然エネルギーを地域で、市民の手で！」のコンセプト説明、「PVパネル組み立て」、「ミニミニ太陽光発電所を作ってみよう」などのワークショップ開催報告、「省エネエキスパート検

定」合格報告、最後に流山市環境政策課から、PV設置補助金についての経緯・説明と他市より高めにしている苦心談などが紹介されました。

全体Q&Aの後、ソーラーLEDスタンドの抽選会(5台進呈)を行い閉会としました。



懇親会では、市民団体がPV普及活動をしていることに新鮮な印象を受けたとの感想やPV-Netとの協働を話題に大いに盛り上がりしました。

【写真：平手氏講演】(新美健一郎)

埼玉から

埼玉からは「東海村原子力資料施設見学会」と「相談員派遣依頼の件」を報告します。

「東海村原子力資料施設見学会」・・・日本災害史上未曾有の被害を出した東日本大震災に福島原発事故による影響は甚大で、収束には莫大なコストと、時間がかかりそうです。そこで、原子力についての正しい知識を得ようと日本原子力発祥の地、茨城県東海村の「原子力科学館」と、「東海テラパーク」【次ページ写真】などの見学会を6月3日に実施しました。科学館では、巡回バスで原子力研究機関の諸施設を見学し、放射線について科学者たちの足跡を追いながら、原子と原子力の基礎知識、原子力と放射線の利用、原子力の安全等に関する説明を受けました。バスの中では、事前学習、3択問題13問に挑戦し、1位には

地域交流会報告

賞品が出ました。各コーナーでは、基本原理を楽しく学ぶために、「がっちりゾーン」、「じっくりゾーン」に分けて、自分の好みに応じて学習してきました。



埼玉県地球温暖化防止センターを運営する、NPO 環境ネットワーク埼玉からイベント開催時に開設する太陽光発電相談コーナーの相談員派遣の依頼が埼玉地域交流会にありました。9月22日（土）は、さいたまカーフリーデー2012 というイベントで、場所は大宮駅西口・鐘塚公園と、10月13日（土）14日（日）は、イオンレイクタウンでのエコウィークキャンペーンで、場所は武蔵野線越谷レイクタウン駅前、イオンレイクタウン内のブリッジで行われました。次に「相談員派遣依頼の件」の報告は同じく埼玉地域交流会北義秀氏からお願いします。（松岡洋右）

「太陽光発電相談員業務活動報告」・・・埼玉地域交流会の北です。私たちは、ここ数年、主な活動の1つとして自治体や住宅展示場などの委託を受け太陽光発電相談業務を実施しています。皆さんご存じのように、ここ数年太陽光発電業界は、固定価格買い取り制度から始まり、設置コストの低価格化、全量買い取り制度と、動きが激しくなっています。私たちには当たり前のことでも、こ

れから設置する方々にとっては情報があふれて戸惑いがあるようです。ここでは、担当した相談業務の中からあくまで私が感じたことを報告します。

【どんな人が来るの？】・・・比較的若い方が多いです。年配の方も関心があるのですが、元を取るのに十年以上かかるため無理と考える方が多いようです。

【どんな質問が多い？】・・・一番多いのは、太陽光発電ってどんなの？という質問です。その際は、相手の理解度を良く観察してやさしく説明する必要があります。事前の広報活動が不十分なせいか、本当に困っている方が来られるのは少ないのが現状です。しかし、中には本気で設置を考えていて困っているという方もいます。「適正価格は？」や「補助金はいくらもらえる？」など、中にはシステムの細かい点まで聞いてこられる場合があります。そういう方が来れば腕の見せどころです。

【事前の準備は？】・・・来られる方々に良く理解してもらえるように一般的な書籍や資料（メーカーカタログ、金融機関の融資制度、各自治体の補助金資料等）を用意しています。しかし最も大切なのは相談者に対する接し方（気配り）を習得しているかだと考えています。

【今後の課題】・・・私はまだ数回しか担当していませんが、以下のような課題があると考えています。●太陽光発電に関する技術や動向等の最新情報が必要。設置後の故障等の情報（データベース）も必要。●発

電量推定や設置後のキャッシュフローなどのシミュレーションソフトの用意。●「相談コーナー」があることを事前にポスター等で広報（できれば）。●省エネや他の環境に配慮した機器についての知識（相談者の関心は太陽光発電だけでない場合が多い。ただし事実と使用感等の個人的な感想は区別して話す必要あり）。

●温暖化や太陽光発電に関する資料の掲示。ソーラークッカーもいい。

（話のきっかけになる。）●子供たちが楽しめるゲームやソーラーおもちゃなどの用意（家族連れの相談者対策。楽しさをアピールし、人集めにもなる。）

【まとめ】・・・環境省は温暖化問題について「普及啓発の時期は過ぎた」としているそうですが、まだ世間一般の関心は低いようです。少しでも皆さんのお役に立てるよう試行錯誤しながら徐々に形を作っていきたいと考えています。（北義秀）

茨城から

いばらき交流会新人世話人の鷲尾です。スマートライフが楽しくなる！「ソーラージャーナル」11月増刊号を眺めていましたら、PV-NET事務局長のお顔写真と記事が掲載されていました。7月28日の総会以来でしたので懐かしく記事を拝読しました。市民ひとりひとりが太陽光発電に関わっていこうとすること、その姿勢こそ、太陽光発電普及の源です。その動きが促進されるような仕組みの提供をしていきますと力強く

コメントされていました。(PV 診断システムの改良改善をいち早くお願いいたします)

さて活動報告ですが①7月14日・・・水戸市国際交流センターにて新入世話人参加していばらき世話人会の今後の活動計画の打ち合わせをしました。次世代エネルギーパークへの見学会・環境関連の団体との連携・参加・太陽光、発電だけでなく HEMS に関する勉強会の企画です。②7月28日・・・2012年度通常総会に新入世話人の私が参加し受付と労務作業をボランティアスタッフでさせて頂きました、久々の力仕事で運動不足の解消になりました。懇親会では各地区の世話人の方々と楽しく懇談ができ、初めての参加でしたので大変勉強になりました。③8月25日・26日・・・笠間の建築設計をしている世話人邸のコンセプトハウス見学、夜はバーベキューをして地酒を酌み交わし懇親を図り、翌朝、自家栽培の西瓜畑で西瓜刈りをしてから笠間市内観光をしてきました。④9月29日・・・水戸の素敵な「ナチュラルガーデン」の世話人邸にてエコめがね導入し HEMS (ホーム・エネルギー・マネージング・システム) 構築中のご自宅を見学して来ました。エネルギーの見える化はこれから大切ですね。⑤10月10日・・・「いばらき自然ネットワーク」会員になりましたので、「ソーラーシェアリングの実証と展望」「農地利用の太陽光発電の可能性と課題」のセミナーに参加しました。農地の緩和処置が有るといいですね。

各地で金融機関主催の「再生可能エネルギーの可能性と利用拡大の取り組み」をテーマにしたセミナーを開催し普及促進をしています。今後は、

環境ボランティア団体・大学のとの連携により環境イベントへの出店参加等も積極的に取り組んで行きたいと思っています。(鷲尾功治)



京都から

PV-Net 京都地域交流会の発足は、2008年「PV-Net 活動」を京都地域に大キャンペーンした翌年の2009年、その後毎年2つのフォーラムと2つのイベントを企画実行している。財源は京エコロジーセンターの環境保全活動助成事業の支援を受け継続してきた。今年2012年も2つのフォーラムと2つ以上のイベントを企画参加。4月「京エコロジーセンター開館10周年記念」(参加2500名)、10月「未来フェスタ京都」(参加2600名)に参加し、そこでは太陽光発電所ネットワークの活動紹介と相談事業を行った。

さて、11月4日(日)に「2012PV-Net 京都イベント『会員宅訪問』」を実施した。2009年以来2軒目となる訪問先は今年新会員になられた澤井様宅である。日々太陽の恵みを有効利用しようと「省エネ、創エネ、節電、節水」を実践、「ロハスの

Life-style」を見て頂ければ幸いですと自己紹介され、参加者も夫々紹介し、交流が始まる。

ご自宅屋根の南面に今年3月に4.3kwhのパネルを設置、10月は495kwhを発電し、毎日楽しんでいる。自然豊かで芸術作品が並ぶ広いお庭で、昔懐かしい焚火とその中で焼いて頂いた自家製の焼き芋を頂きながら環境談義に花が咲いた。お部屋では、6月に関西のTVに澤井さんが参加したPVR「環境に優しい生活実践」を見ながら省エネ生活をお聞かす。20年以上の数ヶ国海外生活、30数カ国の旅を通して得た「異文化体験」

「異国の環境保全生活」の実感の籠ったお話には参加者一同感動。「太陽のめぐみ」を有効に使いたい」「後世の子どもたちに負荷を残さない」

「地球温暖化防止に貢献」などを考えて設置したが家族みんなが「省エネ、創エネ、節電、節水」に関心が強くなったそう。京エコロジーセンターのエコサポーター、うちエコ診断員、省エネ普及ネット京都に参加し活動を続けている中でPV-Netにも出会い京都会員になったそう。今後の話題として、Green電力の今後を知りたい、「ロハスのLife-style」を今後も追求し、その様な方々と仲間になりPV-Net活動を普及したい・・・

お庭での会話の中で「春はこの庭で花見、秋にはバーベキューが似合うお庭ですね」と提案され、「次回は楽しみですね」と、和やかな雰囲気の中で進められた「会員訪問」となった。(写真2枚次ページへ)

★朗報：世話人の高田真雄さん、太陽光発電アドバイザー試験合格報告(日本住宅瀨能検査協会=内閣府認定NPO)

地域交流会報告



【写真：(4.3kwh のパネルを屋根に設置した澤井さんのお宅全景。/ 自家製の焼き芋を食べながらお庭でのショット。】(中村和歳)

神奈川から

神奈川地域交流会です。箇条書きになってしまいますが、神奈川の活動を報告いたします。

(1)6月2日(土)、3日(日)神奈川県環境農政局環境保全部環境計画課、かながわ環境保全推進会議、TVK と組んで毎年行っているイベント「アジェンダの日2012」、t v k 「収穫祭」に今年も出展した。

(2)7月21日(土)平塚市、「ひらつか環境フェア」に出展。

(3)8月5日(日)神奈川青少年センターでの「科学の祭典2012」に、昨年に引き続き出展した。

(4)8月8日(水)見学会、震災の影響で、目的の見学先の都合が悪いところが多く延期に延期を余儀なくさ

れてきたが、ようやく実現した。見学場所：(a)川崎の「JFE・ソーラータクノパーク」集光型 太陽光・太陽熱発電を見学。(b)「川崎天然ガス発電所」排熱回収式コンバインドサイクル方式の発電で、大幅な熱変換効率を実現している。最高効率は57.6%という。(c)「かわさきエコ暮らし未来館」、屋上から東電の浮島メガソーラーパネル枚数は38,000枚、発電出力は7,000kw、年間の推定発電量は740万kwh、を見学。

(5)9月30日(日)「さがみはら環境まつり」に参加出展。

(6)11月3日(土・祝)神奈川アジェンダ推進センターの「ヨコハマ環境行動フェスタ」に出展。(横谷公雄)

中部から

「第8回暮らし方交流会」

いま中部は、第8回エコハウス暮らし方交流会(主催;PV-Net 中部地域交流会)の持ち方で議論白熱、見えてきた論点は3つ。世話人会の議論は続きます。

1. 自然エネルギーで暮らしを創造する市民の実践交流の場に…(だれも制御できない、

だれも未来に責任を持ってない原発より)。

2. 2012年は国際協同組合年。PV-Netの組織ありようと協働を考える場に…。

3. 太陽をこよなく愛する私たち。「自然」をもう一度根底から考え直す場に…。

その昔、「親」にくってかかった

若かりし頃の〈頭でっかちな知性〉を思い出します。

50年ほど前の親や大人たちの自然認識は、知性より、体で感じる、あるいは季節ごとに行われる祭りごとの方を重要視していた、そんな気がします。

私たちはいま原発事故の風に、エネルギー問題の波に押し流されようとしています。

いま私たちが語り合うべきは「確かな未来は懐かしい過去にある」の視点で、暮らしや自然観、生活の知恵、工夫、つながり方を見つめ直すとき、と感じています。

中部地域交流会では『縁側君』(一枚の太陽光パネル=独立系)の取り組みをすすめてきました。それは巨大システム依存からの脱却「自らが電気をつくり、使おう」の取り組みです。この一年、私たちが積み上げてきた実践は、

- ① 地域ぐるみの活動
- ② 独立系の利用と工夫
- ③ これからの自然エネルギーの利用、その課題と展望。

(武田善明)

●第8回暮らし方交流会にご参加ください。

【日時】2013年2月2日(土曜日)13時~17時

【場所】名古屋市公会堂 名古屋市昭和区鶴舞一丁目1番3号

理事会報告

◆参加者◆ 藤井代表理事、横谷副代表理事、野原副代表理事、都筑専務理事、梅澤理事、田中(稔)理事、岸本理事、國井理事、
田中(東)理事、武田理事、松田理事、スカイプ/都筑修三(福岡オブザーバー)、事務局/伊藤、藤井和、加藤 (欠席: 松隈理事)

10.26 事務局にて

確認事項

(1) 理事会の年間スケジュールを組み立て、大集合イベントは来年 2 月 16 日に決まる。委託事業、自主事業、市民共同発電所事業等の概要を確認。(2) 全国運営体制では理事を出していない地域への情報共有を行う連絡係を決める。茨城: 田中稔、栃木: 梅澤、千葉: 横谷、富山: 武田、山梨: 田中(東)、山口: 事務局と選及び調整中。

報告・検討事項

(3) 部会報告【相談室/國井】各地の地域相談員の稼働状況はまちまち。現状は健康診断の回復待ち。年明けの 2 月上旬には育成講座を計画。

【普及広報部/松田】会報 25 号は 11 月、その後は 3 月、7 月予定する。今年の RE2012 幕張メッセは参加、エコプロダクツ展は不参加。【PVG 事業部/藤井和】年間の販売量は前年度を上回ったが認証発電量も年々増え続けている。販売先はレギュラーが多く 4 割が産地指定の購入。9 月の交付では 2009 年～2010 年認証分電力が中心となった。最近入会者はグリーン電力販売の目的で入会するのが増えていると理事から発言。

(4) 地域報告【中部ブロック/武田】「第 8 回エコハウス暮らし方交流会」を準備中。身の丈にあった独立系 PV の普及により一層力を注いでいく。【関西ブロック/岸本】代表が代わり現在 3 人(南里・中村・北方)体制に。8 月に行った交流集会は、

積極的な参加者が多く非常に盛り上がった。一方でグリーン電力に関する具体的な質問や要求も増えた。

(5) 地球環境基金報告、PV 健康診断回復についての報告の後、

(6) 太陽光技術者育成テキスト完成の報告が藤井石根代表より。これから太陽光関連の仕事に携わろうとする人のための基本書、設置者や電気屋さんに、この程度は知っておいてほしいという内容が網羅されたもの。1 冊 1,500 円で販売(会員価格 1,200 円/書店売りは無)する。講座や各セミナーでの多量購入にも期待。

(7) 9 月小諸エコビレッジでの #2 自然エネルギー学校報告(P10, 11 参照)があり、その後、休憩をはさみ

(8) 市民共同発電所の進捗状況の報告が行われる。【福島県・喜多方市/都筑】積雪地ということがネックで個人住宅向けの普及が進んでいないこの地で太陽光が可能なことを証明し、まちおこしと個人の普及につなげるのが狙い。【長野県・小諸市/伊藤】設備容量は 13.4kW。内訳はハンファソーラー 5.6kW、三洋製中古パネル約 4kW、三菱製中古パネル約 4kW。中古パネルは不要になったものを、PV-Net の取外費用負担でリユース。設置費用はトータルで約 400 万円。長野県から約 200 万の補助が出、残り 200 万円については借入金方式で、会員やエコビレッジ関係者を中心に集める予定。【東京小平市/田中稔】設置場所は(株)小川工営ビル屋上。設備容量 12kW。費用は 500 万円

のうち 120 万円が補助金。3 月末までの設置を考えると、擬似私募債または共同事業出資の形で資金を募り始める。一般市民に対して広く公募を行いたい。【岩手県野田村/都筑】復興のシンボルとなる市民発電所を建設し、県内からの出資や売電収入が、地域に循環する復興モデルを目指す。【岐阜中津川/野原】地元の人たちの寄付と援助でできた福祉施設の収益が、福祉行政の改悪のために収入が減少しているため敷地内に 50～100kW の市民共同発電所を建設し、売電の収益を福祉施設の運営にあてたい。【静岡・千葉等その他、/田中東、都筑】「伊豆の国電気の畑」は 9 月 1 日より売電が始まり、稼働中。見たいという声があるため、11 月 17, 18 日に見学会を実施。第 2, 第 3 の市民共同発電所に関しても現在、候補地を探している。この他に千葉や山梨県でやりたいという声も上がっている。【理事意見】出資をすれば必ずリターンが返ってくると思っている人もいるはず。出資者教育をきちんとしないと問題が起きてしまう。市民共同発電所は太陽光発電を屋根に付けることのできない人など、多くの人に発電に関わってもらう手段。参加することでエネルギーに対する意識を変えることもできる。その軸を見失わない運営や出資集めを徹底してほしい。市民共同発電所も大切だが、今後も独立系の取り組みもきっちり推進していくことが現在の PV-Net にとっては重要である。

☀ ご寄付、どうもありがとうございました！

野原敏雄 吉田幸二 高橋邦裕 後藤英子 榎史郎 亀橋節夫 三代川正秀
 久保田雅晴 長徹郎 鈴木和博 金谷和夫 知久貴 森崎要造 河野勝泰 野本元
 藤田房子 長野文男 西塚長作 岡清治 高松泰男 佐藤新一 吉田栄吉 川本健治
 武井瞭 伊藤浩子 中村透 戸井田利夫 野田伊織 鈴木昭男 鈴木光枝 鈴木奈緒
 長田政 須藤永祥 広井功 横山英俊 金丸吉夫 瀧野晃一 岸本康子 藤田陽右
 中川善樹 寺尾健男 山口征也 伊藤進 大山茂 小笠原明生 山崎靖男 駒野松也
 薩摩義勝 安土清忠 佐々木皓吉 八木隆雄 澤田威 中田芳雄・タカ子 富塚敏夫
 山下隆也 鳥居勝一 見方平 小西甲 重宗利明 安藤忠男 野田勝彦 佐藤征雄
 辻田烝治 石井信満 中村和歳 川渕れい子 杉本三智夫 鈴木春雄 岡篤夫
 横尾秀子 金子武夫 柳瀬仁茂 山岸三雄 村田茂 土井敏彦 小池誠治 野田城秀
 鳥越隆司 志村三郎 天野軍吉 小山直子 永木猛弘 村田純一 鈴木保 小関光二
 所宣夫 田中浩二 戸井田利夫 種村勝平 秋山真紗代 川合英晴 岸田俊雄
 金子優子 鈴木祥平 原中輝司 藤川百合子 渡来美知代 渡辺孝 番場祥亮
 村上宏征 安藤英敏 小西健司 岡村悦子 内山明夫 鈴木弘一 三石博之
 赤穂榮一 環境アリーナ研究機構 池田真樹 松尾廣伸 長澤志郎
 匿名希望1名（順不同）・・・活動へのご理解とご支援に厚くお礼申し上げます。

☀ PV-Net 活動を応援してくださる、 賛助会員を募集しています！

太陽光発電所ネットワークでは、活動趣旨に賛同し運営を支援して下さる団体・企業・個人の皆さんを募集しています。賛助会員名は当団体のホームページ（以下 PV-Net HP）、賛助会員一覧にも掲載されます。募集の詳細はPV-Net HPをご覧ください。事務局までお問い合わせ下さい。

	年会費（入会金※1）
企業・団体	3万円/1口 1口～※2
個人	1万円/1口 1口～

※1 初年度は入会金のみで年会費は不要。
 ※2 年会費は1口以上でお申し込み下さい。

ペンギンのはばたき

口慌ただしかった今年、気がつけばもう12月・・・！
 身のまわりにたくさんの変化がありました。ただ、全ては
 とても良い方向に向かっています（＾＾）。嬉しいかぎり。
 皆様のお蔭です。どうもありがとうございます。（い）
 口非常勤として事務局のお手伝いを始めています。これま
 でも環境系の仕事を手がけてきましたがより現場や市民に
 近いPV-Netは毎日が新しい刺激でいっぱいです（KATO）。

口原発被災地に太陽光発電所を地域の皆さんと一緒に作ろう
 とさまざまな人達と会いました。状況は想像していたものより
 厳しいものです。表面的には普通を装っていても会話や振る
 舞いの中の一言一挙動に見えないものへの「オソレ」が見え
 感じられました。（都）
 口大宮アルディージャが最後のホーム2試合でG電力証書を
 購入してくれました。勝利を祈ります（Kazz）。

Editor's Notes



特定非営利活動法人
太陽光発電所ネットワーク (略称: PV-Net)
 〒113-0034 東京都文京区湯島1-9-10
 湯島ビル602号室

〈交通のご案内〉

- ① JR/地下鉄御茶ノ水駅「聖橋口（秋葉原駅側）」より徒歩5分
 - ② 地下鉄新御茶ノ水駅「B1出口」より徒歩5分
- TEL 03-5805-3577
 FAX 03-5805-3588
 URL: www.greenenergy.jp
 E-mail: info@greenenergy.jp

※ 値: 400円 (会員は会費に含まれています)

< 4月 >

- 5 東京地域交流会 世話人会
- 7 埼玉地域交流会 世話人会 & 花見
- 17 神奈川地域交流会 世話人会

< 5月 >

- 9 東京地域世話人会
- 3 埼玉地域交流会 世話人会
- 15 神奈川地域交流会 世話人会
- 19-20 くまがやエコライフフェア出展

< 6月 >

- 2-3 エコライフ・フェア 2011 出展
- 3 東海原子力発電所見学会 (埼玉地域交流会)
- 9 埼玉地域交流会 世話人会
- 17 住宅展示場 / ハウスフォーラムふじみ野相談会
- 19 神奈川地域交流会 世話人会
- 29 東京地域交流会
- 30 さいたま市エコライフフェア相談コーナー開設

< 7月 >

- 1-17 大宮高島屋にて埼玉地域、
エコ普及啓発ポスター展示
- 7 埼玉地域交流会 世話人会
- 17 神奈川地域交流会 世話人会
- 28 PV-Net 総会
- 29 小瀬エコブース (山梨)

< 8月 >

- 5 埼玉地域交流会 世話人会
- 11-13 みんなのエネルギーフェスタ 2012 出展
(東京地域交流会)
- 19 世田谷発 / 市民が広げるソーラーエネルギー
- 21 神奈川地域交流会世話人会
- 25 ドイツのソーラー市民活動家
フントハウゼント氏との意見交換
栃木地域交流会 世話人会
- 26 PV-Net 大阪交流会

< 9月 >

- 5 東京地域交流会 世話人会
- 8 こだいら環境フェスティバル
埼玉地域交流会 世話人会
- 11 中部地域交流会 世話人会
- 18 神奈川地域交流会 世話人会
- 19 静岡地域交流会 世話人会
- 29-30 小諸自然エネルギー学校 in 秋祭

< 10月 >

- 3 「シェーナウの想い」上映会 (専修大学内)
- 5 東京地域世話人会
- 13 埼玉地域交流会 世話人会
- 14 フォーラム 2012 in ながれやま
やまぐちエコパークまつり (山口)
- 16 神奈川地域交流会 世話人会
- 18 中部地域世話人会
- 26 理事会 (湯島事務局)
- 27 千葉地域交流会 (船橋市民活動センター)
- 30 静岡世話人会